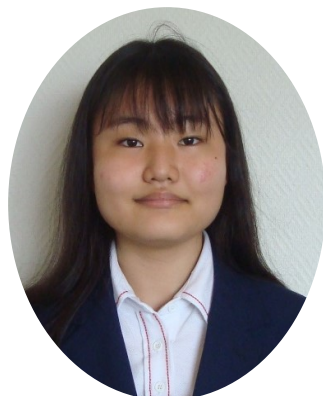


## 京都市PTA連絡協議会会長賞 「SNSの情報との向き合い方」

京都市立勸修中学校 3年  
山田 美 優



あなたは、「デマ」に惑わされたことがあるだろうか。

近年、大きな災害や事件による社会の混乱にあって、SNS上でデマを拡散する人が増えている。例えば、ティッシュやトイレトペーパーが品薄になっているという根拠のない情報が広まり、各地でそれらの買い占めが起きたことは記憶に新しいだろう。

このようなデマに踊らされないために、私達情報の受け取り手は、情報の精査をしっかり行い、情報の拡散はとも慎重にする必要がある。

そこで、私は自分なりの情報への心構えを持ち、真偽の見分け方を知っておくべきだと考える。

SNSを見ると、厚生労働省等の政府の公式アカウントはシェア数が二〇〇〜一〇〇〇、いいね

の数が一〇〇〜一〇〇〇であるのに対して、緊急性があり、不安を煽るような情報は信頼できるかどうかに関わらず、数千ものシェア、万単位の「いいね」がついていることが多い。つまり、根拠云々より感情を揺さぶる情報の方が事実より拡散されやすいということである。たくさんのシェアや「いいね」がされているからといって、それを鵜呑みにし拡散するのは危険である。

情報を見極める上でもっとも大切なことは、「根拠やデータをはっきり示しているか」、「発信源は信用できるか」であると私は考える。SNS上で広まるデマの多くは、「友達の医療従事者によると〜」等、信用ならない情報源からの又聞きが多い。根拠・データ・発信源のどれか一つでもあやふやなものは、デマとして扱うのが良いだろう。

次に、自分がデマの発信源となる可能性を理解しておくことも情報を扱う上では大切である。もしも自分が世に発信できる情報を持っていたとして、何も考えずに発信するのではなく、先に述べた「根拠やデータ」「発信源」この二つを用いてふるいにかけるのが良い。

さきほど私は情報を見極める上で重要な事を二つ述べたが、実はもう一つある。それは、「多角度から見ると」ということだ。例えば、新聞に記されるような情報は、それぞれの社によってもデータ上の数字・過去からの予測等、注目する箇所も変わってくる。様々な視点から情報を読み取り、自分なりに咀嚼することも情報を見極める上ではとても大切である。

ここまで情報の発信や受け取る際に気を付けることばかりを書いてきたが、私は「拡散」を特に気を付けたいと考えている。情報の拡散は時に取り返しのつかないことになることもある。新型コロナウイルスが流行している昨今、加湿器で次亜塩素酸ナトリウムを散布すれば、空間除菌ができるという情報が多く出回った。しかし、確かに次亜塩素酸ナトリウムは除菌をすることはできるが、人体に非常に有毒である。それを知らずに拡散し、健康被害を負ってしまった人がたくさんいる。私達がきちんと情報を見極めず、「拡散」してしまったせいでこのようにとり返しのつかないことになってしまっているのだ。

以上のことをまとめると、私なりのSNSの情報への向き合い方は、いいね、シェア数が多い情報であっても、鵜呑みにして拡散しない。根拠やデータをはっきり示していない情報や、発信源がはっきりしない情報は信用しない。自分がデマの発信源となりうることを理解する。情報は多角度からみて判断する。等である。

この玉石混交な情報が入り混じる社会では、情報を正しく判断し扱う力が必要不可欠である。もちろんこのような情報との向き合い方は私なりのものであって必ず正しいという訳ではないだろう。

だから、こんな緊急事態だからこそ、今一度自分なりの情報との向き合い方を考えてみてはどうだろうか。